

## (1) 子育て支援への取り組み

## ① (仮称) 子育て支援プラザ

生活の中で子育ての営みが自然に組み込まれて、子育てをごく日常的に楽しんでいた時代が残念ながら遠のいた感があります。市内では、三層構造の子育て支援体制を充実させつつありますが、まさにこのような取り組みは、「安心できる子育ての日常」の復権をめざしているとも言えます。

こうした三層構造の支援が有効に機能するためには、養育者が「誰かに支えられている」と感じられることと、必要な時に自分の必要な資源に出会うシステムづくりが必要です。

また、支援者については、支援するばかりではなく、やはり活動をサポートしあえる体制があり、様々な立場の支援者がつながっていること、支援内容をスーパーバイズしてもらえるシステムづくりが大切です。

そこで、事業計画としては、支援プラザの事業を通して、養育者も楽しみ、支援者も力をつけて、それを地域で活かせる体制づくりが必要であると考えています。

当フォーラム関係者のこれまでの活動（乳幼児子育てネットワーク・ひまわりなど）は、当事者の参画のもと、「こんな場所があったらいいな」「こういうサポートがあれば嬉しい」という視点で多くの支援者や専門家をまきこんで、行政や国との協働の中で様々な事業を実現してきています。市民センターも、90年代よりも、どんどん子育てする人に優しくなり、多くの施設も地域にひらかれた心強い存在となってきた今、この支援プラザと地域で子育て支援のよりよい循環を生み出す方向で取り組みを考えました。

## ■支援の方針

どんな企画をするのか、だけでなく、どのようにするのかについて、支援の方針を明確にする。

1. 親自身、子ども、子育てに関わるNPO、支援者などが相互に学びあい、育ちあう場を提供する。
2. 子育て環境に大切なリソース（資源）を市内外広くから発掘し、開発し、育てることを主眼に置いた事業とする。
3. 子育て環境のリソースを市内の各種施設、地域の市民センター、企業、NPO等につなぎ、子育て支援の3層構造が有効に機能するよう図る。
4. これらの事業を通じて、親を初め、市民全体に子育ての力を付ける。
5. 個々の事業において、事業の対象者の評価、専門家、(仮称)次世代育成行動計画推進懇話会の意見をふまえ、内部評価、外部評価を伴う事業サイクルとする。

## 支援の柱

- ・支援者も当事者も共に育ちあう支援（当事者が参画する支援）
- ・支援プラザが、地域の支援のモデルとなり、バックアップとなる支援
- ・先駆的な子育て支援や様々な企画、遊びの開発拠点
- ・各事業でのふりかえりを重視し、ノウハウを蓄積し発信する手法。

0歳～就学前の子どもとその養育者、妊産婦に向けて、環境をいかにしながら、居場所として落ち着いて滞在することができ、何よりも楽しい時間をすごし、自分の必要な情報を得られ、自身の子育て観や育児力、子ども観が養われるような空間、時間、仲間づくりをめざします。同時につねに、「支援する人、される人」ではなく、当事者が参画するしかけをし、養育者も支援者も共に育ちあう中で事業を実施します。

また、ボランティアとして関わる支援者は、地域での現場を持つ方（教育委員会の子育てサポーターなど）などを優先して募り、地域と支援プラザの情報や、人材の交流・循環が起こるようなしくみをつくります。支援プラザは、関係各機関のリソースを集め、支援のバックヤードを構築し、地域の子育て支援力の向上のための基地となります。

これらの支援の集積や循環が、区から地域の市民センターへと引き継がれ、子育てする人の身近な地域で、良好な子育て環境が整っていくことをめざします。

## ■事業項目

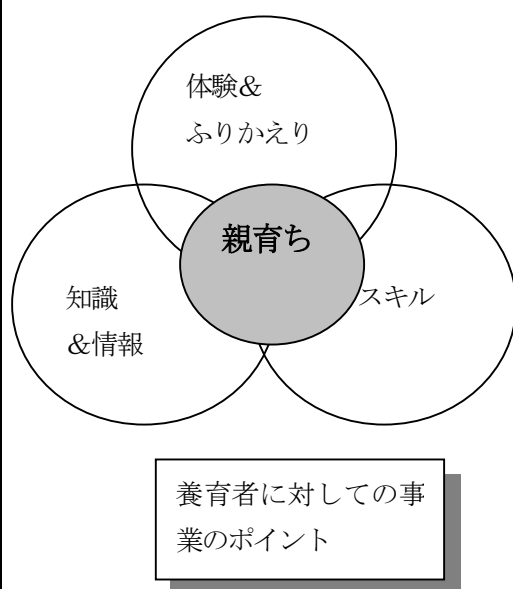
1. 親、養育者の育ちを支えるモデル実践とノウハウの形成、プログラム化
2. 乳幼児の育ちを支えるモデル実践とノウハウの形成、プログラム化
3. 子ども・子育てに関する情報の集積と発信
4. 子育て支援者の実践的養成と第三層への供給
5. 子ども・子育てに関する市民活動の活性化支援
6. 区との協働による第二層支援施策充実事業
7. 市民センターとの協働による第三層支援施策充実事業
8. 企業内教育へのプログラム提供
9. 子ども相談センターはじめ市内の子ども・子育て関係施設との緊密な連携
10. 芸術、学習、観光など市内施設との多様な連携

■事業内容

1. 親、養育者の育ちを支えるモデル実践研究とノウハウの形成、プログラム化

- 1) ノンプログラムの施設内での「遊び」「交流」「体験」を通した学びの相乗作用を重視（スタッフが環境づくり、安心できる雰囲気づくりをする）
- 2) ほぼ毎日の基幹的小企画（ハイハイ広場やお話しコーナー、創作スペース）
- 3) 月に2, 3回の、テーマ企画（ハイハイ広場や多目的教室、ライフスタイルライブラリー等）
- 4) 年に2回の看板企画（ホール等）

これらを、市内の関係機関と連携しながら、実施していきます。



- 知識&情報 子どもの発達、また、遊びと発達の関係、メディアの影響を情報として知ること、3歳児神話も、子育てを母親一人で囲いこまないように理論的系譜を知り、相対化することが必要。また、必要な地域情報や支援情報を得ることも大事。
- スキル 食育や、子どもとのコミュニケーション、絵本読みになれることなど、くりかえしすることで確かに身についてくるスキルがある。子育ての大変さをやわらげるスキルの獲得を支える。
- 体験&ふりかえり 必ずふりかえって自分とむすびつけて考え、意識化することで、らせん状に親育ちがすすんでいく。

定期イベントの内容：

① ノンプログラムの空間・時間の雰囲気づくり

人も含めた意味での豊かな環境の中で、イベント的ではなく、安心して居ることができるように、オリエンテーションやインフォメーションを含め、スタッフが対話しやすい雰囲気をつくります。各コーナーごとにわかりやすいポップや展示パネルで、プラザのコンセプトを伝えたり、情報提供やインフォメーションを行います。

② 日常的な小企画

毎日、創作スペースや、お話しコーナー、ハイハイ広場などで、絵本読み、家でも遊べるおもちゃ（スライムや小麦粉粘土など）、工作、わらべ歌、手遊び歌、親子体操などの小企画を実施します（30分～1時間程度）。

一方的に楽しませるのではなく、家で子どもと一緒に遊べるきっかけになり、毎日の生活に実際に取り入れられるような構成を心がけます。

また、スタッフだけでなく、ボランティアや、子育てしている親自身も、子育ての工夫を伝え合う機会をつくります。（次項に、ある月のプログラム例を掲載）

③ 月に2, 3回の、テーマ企画

発達や、しつけ、卒乳や、オムツはずし、幼稚園、保育園選び、再就職の話題など、養育者の関心の高いことを中心に時には託児もつけてグループワークの形式で企画、また、光、音など五感で楽しむ遊びのプログラム、粘土のワークショップや、てづくりおもちゃ、木工、表現ワークショップなどを企画。学習プログラムとして安全に関する講座や食育など、

2時間程度でじっくり取組めるものも託児つきで実施します。

また、妊産婦や学童期の親、父親同士の交流イベントも実施、子育てに見通しがもてるようにします。

ある月のカレンダー（例）

200×年2月きさらぎ							
	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	4
第1週				★元気で2月 (身体測定)	各区じまん(南区)	テーマ企画(託児あり)「冬野菜で離乳食」	親子でボールエクササイズ
	5	6	7	8	9	10	11
第2週		うたと手遊び	休館日	家でも遊べるカ ンタンおもちゃ (小麦粉粘土)	各区じまん(東区)	お誕生会	テーマ企画「パ ペット・ショー」
	12	13	14	15	16	17	18
第3週	テーマ企画「光 で遊ぼう」	うたと手遊び	ブックトーク	家でも遊べるカ ンタンおもちゃ	各区じまん(門司区)	フリートーク「し つけ(2歳児)」	親子でボールエクササイズ
	19	20	21	22	23	24	25
第4週		うたと手遊び	休館日	家でも遊べるカ ンタンおもちゃ	各区じまん(北区)	絵本を読もう	テーマ企画(託 児あり)「幼稚園 バッグをつくろう」
	26	27	28				
第5週	フリー マーケット街	うたと手遊び	わらべうた				

・「各区じまん」は、サポーターや観光ボランティアや、来館者、時にはまちづくり推進課の職員が独断と偏見に満ちて、地域のおすすめ情報を語ります。

④ 年に2回の看板企画

12月には、オープニング&クリスマスイベントとして、コンサートや人形劇、講演など大きなイベントを開催します。初年度は、(例として) NHKの「ひろみちおにいさんのコンサート」や、中川ひろたかさん・工藤直子さんのコンサート、いわむらかずおさんや五味太郎さんのブックトーク、坂本広子さんの食育の講演、相沢康夫さん(おもちゃ作家)のトークショー、米村伝次郎さんの科学あそびなどいくつかの事業で構成し、支援プラザのコンセプトを伝えます。

また、毎年12月にオープニング記念事業で「(仮称) 子育て・親育ち市民フェスタ」として、サークルやグループ活動、ボランティアやNPOが様々な独自の事業を行う機会をつくり、市民の活動を支援します。

2. 乳幼児の育ちを支えるモデル実践研究とノウハウの形成、プログラム化

(1) 八育のための遊び事業

前述のように、毎日、創作スペースや、お話コーナー、ハイハイ広場などで、定期的に絵本読み、家でも遊べるおもちゃ（スライムや小麦粉粘土など）、工作、わらべ歌、手遊び歌、親子体操などの小企画を実施します。また、光、音、触覚など五感で楽しむ遊びのプログラム、粘土のワークショップや、てづくりおもちゃ、木工、表現ワークショップなどを企画。常設の各コーナーでは、様々なおもちゃや、設備が乳幼児の感覚統合にどのような意味を持つのかを、サポーターが伝えていきます。八育のテーマにそった講座やワークショップの企画は、地域でも実践しやすいように、プログラム化を検討しながら実施します。

また、長期の休みの際に、展示会や人形劇、コンサートなどの芸術文化プログラムなど特別イベントを組み合わせ実施します。

(2) プログラム実践研究事業

上記企画を地域等で活用できるようプログラム化します。ブックレットにして、各市民センター、支援センター等に配布。

(2) 講座託児事業

子どもとの遊びに、多胎児や障碍児、きょうだい児のために、託児者がいたほうがよい場合は臨機応変に対応します。

3. 子ども・子育てに関する情報の集積と発信

(1) (仮称) プラザニュースの発行

企画を紹介したプラザニュースを毎月発行。西部ガス「&」とともに、全市的に配布。

(2) HP・メールニュース事業

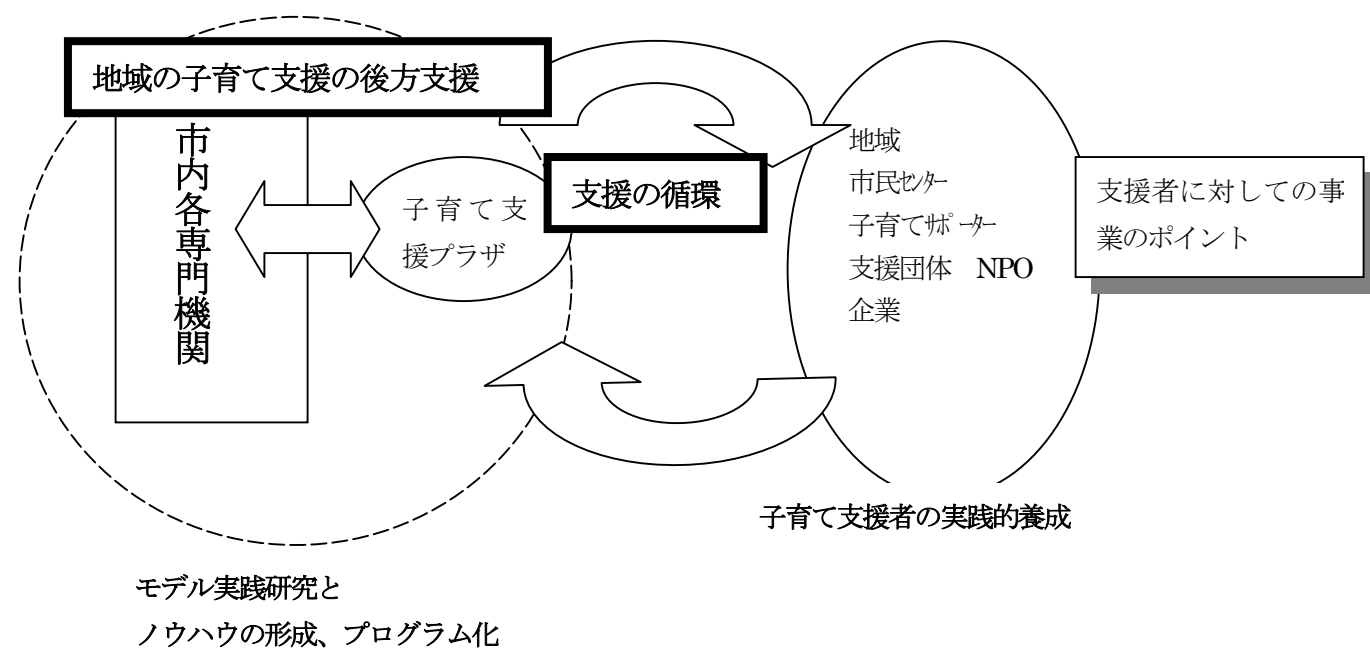
企画の広報と事業報告、プラザの紹介などをHPで更新していきます。また、メールニュース事業では登録されたメールに週ごとに企画を流します（地域情報は口コミでひろまってしまうことが多い）。メル北や、市民活動サポートセンターのキラキラヘッドラインニュース、北九州情報ひろば、ドンナマンマHP、障害ボランティア協会のメールニュースにも、掲載します。同時に、関係機関とNPO、ボランティア団体に情報を募ります。メールニュース上でも、子育て関係の情報を募集します。

(3) アンテナ会員事業

各区に3人の当事者リポーターを依頼。地域情報を集めてもらい、プラザの情報を地域で伝えてもらいます。年間パスポートを無償提供。年12回の情報交流会に参加。1人が年に1回くらいプラザニュースにミニレポートを掲載してもらいます。

4. 子育て支援者の実践的養成と第三層への供給

図A 支援者・支援団体と子育て支援プラザの関係



(1) 地域に現場をもつサポーターのOJT事業

定期的、体系的な研修を継続的に受けて、支援プラザでのコンセプトを地域にひろげる媒介者に育つよう（上記図A参照）支援します。

1. オリエンテーション研修

- ・新新子どもプラン、子育て支援プラザのコンセプトの理解。
- ・施設の各コーナーの特色を発達と遊びの視点で確認し、理解する。
- ・安全確保について

- ・来館者とのコミュニケーションについて
- 2. 1ヶ月研修
  - ・日々の活動から、課題や不安をあげ対応を共有する。  
(主に支援者のエンパワメントをはかる)
  - ・地域からの情報の取り方
  - ・支援プラザからの情報の伝え方
- 3. 3ヶ月研修
  - ・発達と遊びについての講義(前回より、詳しく)
  - ・北九州市の子育て施策～地域づくりワークショップ
- 4. 6ヶ月研修
  - ・養育者とのコミュニケーション研修
  - ・遊びや子育てスキルのリソースの整理と共有
  - ・多様な発達への理解

ブ活動を支援します。

今回の応募団体である(特活)北九州子育て・親育ちエンパワメントセンターメンバーは教育委員会の手がける「家庭教育推進事業」のH16年度の子育てサポーターフォローアップ研修に委員として参画してきました。教育委員会の子育てサポーター制度との連携をはかりながら、この地域サポーターの養成事業を実施したいと思います。

※企業のボランティアや学生ボランティアなど、単発でのボランティアにも、短いオリエンテーションを準備し、支援プラザへの理解を深める。

#### (2) 利用者→サポーターステップアップ事業

子育てにおいて最も頼りに成るのは、同様の経験をした親の存在。そこで、子育て中の親で、子育て基礎講習(有償)を受講した人は、「コミュニケーションサポーター資格」を発行し、フリースペース、遊びのスペース等で、他の親子とさりげなく関わりを持つボランティアとなるように考えています。当事者が支援されるばかりでなく、セルフヘルプしていくときに、互いのエンパワメントが起こります。内的な変化をうながすしかけのひとつです。後述するポイントカードで来館すること自体がポイントとなります。

#### (3) 子育てサポーター養成講座

子育て支援者、子育てNPOのスタッフを対象として、各種養成講座を実施します。

環境整備/遊び/保育/サークル作り/わらべうた/離乳食指導/マネジメントなど。これらの養成講座は座学だけではなく、本施設をOJTの場として実践的に学習する(有料)。養成したサポーターは、支援プラザで実習を積んだあと、地域で活躍する人材として還元することになります。(3テーマで3回講座)

#### (4) 学生サポーター養成事業

中学生の子育て支援体験学習(総合学習)の受け入れ(20人を10校)。中学生/高校生/大学生を対象として、各種サポーターの養成講座を実施。さらにボランティアグループ形成の支援も行います。(20人のグループ\*3テーマ\*3回)

#### (5) 各種講座プログラム開発

ワークショップ、OJTトレーニングなどを取り入れた、各種プログラムの開発をし、ブックレットにまとめ市民センター等に配布します。

#### (6) サポーターグループ支援事業

各種サポーターが自主研修を企画した際にサポートする事業。学びとボランティアは車の両輪なので、自律的なグルー

### 5. 子ども・子育てに関する市民活動の活性化支援

#### (1) (仮称) 子育て・親育ちフェスタ

12月のオープニング記念の際に、子育て・親育ちに関する団体が実施する自主企画事業を助成し、市民全体で、「子育て支援」というテーマで考えていきます。また、企画の際には、情報提供や、事業実施の相談に対応し、市民の企画力をサポートします。

団体発表とともに、リレートークなど、市民団体や企業の取り組みの発表の場を設けます。

紙の情報からは分からない生きた情報を得る機会となり、また、人と人が出会う機会にもなります。

#### (2) 子育て・親育ちNPO活動研究事業

市内の子育て・親育ちに関する活動を行うグループの持つ課題に対して、支援プラザでは取組みにくい事業について、共同企画で地域での活動をしていただきます。事業型の「子育て支援NPO」の中には、団体の運営面や事業面の課題がみえていても、日々の活動で手一杯なところも多いと思います。団体の課題をともに解決していくことで、草の根的に様々な場所で、市民の手による事業型の支援が行われるように、そのノウハウをフィードバックしていただき、資料として支援プラザから発信します。

#### (3) 市民活動託児支援事業

市民活動の企画や準備で託児が必要な時に、託児者をつけます(5人の託児者を30グループ程度に支援)。

#### (3) 市民活動サポートバス事業

### 6. 区との協働による第2層支援施策充実事業

#### (1) 7区協働支援システム研究ワークショップ

年2、3回。非常勤の子育て支援の専門家とともに、各区の子育て支援関係者で意見交換の場をつくり、顔のみえる関係をつくり、各区の特性を活かして、市全体のシステムを考える機会とします。

#### (2) 各区子育て支援システム研究事業

区単位の学習会、連絡会を定例的に開催する。1年目は支援プラザの事業の情報共有を図り、地域からの情報をいただく循環経路をつくり、2年目に区ごとの課題を抽出し、解決に向けてのワークショップを開きます。3年目には、解決にむけての工夫を各区の実情をふまえて事業化します。3ヶ月に1回のペースでコンスタントに開催するように考えています。

### 6. 市民センターとの協働による第三層支援施策充実事業

#### (1) サポーター派遣事業

支援プラザで養成し、プラザの現場で実践を重ねたサポーターを、市民センターの依頼に応じて派遣します。また、市民センターのサポーターの研修時や作業時にサポーター支援のために、託児者の派遣も考えています。

#### (2) 市民センターアウトリーチ事業

サークルやF S、市民センターの主催事業など、地域活動の活性化のために、市民センターの企画にもとづき、依頼を受けてプラザのソフトや人材の派遣を行います。

### 7. 企業内教育へのプログラム提供

#### (1) ファミリーフレンドリー企業育成事業

301人以上の従業員を雇用する事業所では、次世代育成行動計画を策定すべきであるが(罰則規定なし)、平成17年4月末の時点で、まだ、36.2%の策定率である(日経新聞5月31日号)。一方、策定義務のない中小企業でも、人材

確保にせまられ、行動計画の策定により、認定マークが得られることから、仕事と育児の両立支援に動きはじめています。行動計画策定セミナーや、先進的な取り組みをしている子育てに優しい企業事例の市民への広報などの事業を実施します。企業への効果的な働きかけのために、市内で意欲的な取り組みをしている企業(例:TOTO)との協働で、1年目は研修モデルや、策定セミナーのプログラム作成をし、2年目は(2)や(3)の事業を含め展開、3年目に参加する企業を増やしていくように考えています。

#### (2) 企業研修受け入れ事業

(2年目以降)市内事業所から、社員研修(子育て支援活動によるEQ指数の向上)を受け入れます。支援プラザの現場で来館者との対応を実践で学び、現代の少子化問題の背景を含むオリエンテーション研修を組み合わせます。

#### (3) 企業研修アウトリーチ事業

子育てと仕事の両立のために、支援プラザのソフト、研修講師の派遣事業を行います。

### 8. 市内の子ども・子育て関係施設との緊密な連携

#### (1) 子育て支援のソーシャルワーク研修

支援プラザのような、人の集まる場所へ遊びにくる親子は、すべての人が、アンテナが高く元気なわけではありません。一見元気そうにみえても、乳幼児親子の背景には、多様な問題が潜在していることも多いのです。支援プラザスタッフがそうした背景に気づき、自らができる支援とできない支援を自覚し、必要な機関へつなぐソーシャルワーク力を養成するために、各機関の関係者とともに研修を実施します。

1年目に他都市の同様の施設でのソーシャルワーク的視点での重要事項を整理し、2年目以降に市内各機関との連携のもとで、市内のソーシャルワークにあたっての課題を整理、課題解決のための研修を行います。

#### (2) 連携ミーティング

子ども総合センター、療育センター、障害福祉センター、男女共同参画センタームーブ、各区支援センターとは、定期的な会合を持ち、子育て支援の資源情報の共有や必要な連携を行います。

#### (3) 区主催事業連携事業

生活支援課のポリオ接種のように、会場に苦勞している子ども、子育てに関する事業を誘致します。その際、利用者にとって最大の障害となるのがA I Mの駐車料金です。

そのために、駐車料割引券を利用者に提供することを考えています。この事業によって、普段、本館に足を運ばないような親子の来場の機会ができ、広報効果もあがると思っています。1時間程度で終わる事業と、2時間～3時間かかるパパママ教室のような事業を想定しています。

### 9. 芸術、学習、観光など市内施設との多様な連携

市内には、芸術劇場や、環境ミュージアム、いのちのたび博物館、レトロ地区など、テーマ性を持った施設も多く存在します。子連れの時節は、足がとおのきがちでも、事業を工夫することで家族で参加しやすい条件を整えることもできます。芸術劇場の乳幼児親子向け表現ワークショップ、レトロ地区との共催による「育児サークルミニミニツアー」「いのちのたび博物館ミュージアムティーチャーによる「きょうりゅうのお話ときょうりゅうのえほん」など、多彩な事業企画が可能であると考えます。